



弥生の出雲王に出会える

季刊

第52号

(2024年1月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

★ギャラリー展Ⅱ

「出雲市大社町・ひろげ遺跡

—700年続いた火のまつりの場—

開催中〜2月19日(月)

出雲市大社町の日御碕地区の「ひろげ遺跡」は、発掘調査を通して、弥生時代後期から奈良時代に至るまでの約700年間続いた火のまつりの場であったことが明らかになりました。ここでは、約一万点もの土器の破片や約1200点の石器・小石が見つかりました。完形で残る土器はなく、ほとんどがまつりで壊されたと考えられます。

今回、展示に際して、これらの土器を再整理したところ、新たな発見がありました。これまで、すべての土器は地元出雲のものと考えられていましたが、他地域に関わる土器も含まれていたのです。

まず弥生時代の土器を見ると、弥生時代後期(二世紀)の瀬戸内西部地方(山口県)の特徴を持つ壺が確認されました。見つかったのは口縁の破片で、口縁の外側を「く」字に突出させる形が特徴的です。また、九州北部地方(福岡県)で見られる筒形の器台も確認されまし

た。県内では初例です。九州で作られたと考えられ、器台のみで使われることはないため、壺などの他の器種も持ち込まれた可能性があります。さらに、吉備地方(岡山県南部)の小型器台を模倣した土器も見つかっています。

こうした他地域の土器は出雲平野の集落跡でも見つかっており、ひろげ遺跡でのまつりは他地域の人々によって行われたのではなく、他地域との交流に関わった出雲平野の人々によるものと言えるでしょう。

さらに、古墳時代の土器では、古墳時代後期(六世紀前半)の黒色磨研土器を新たに確認しました。これは、焼成前の土器の内外面に磨きをかけて、焼き上げた後、燻すなどして器面に炭素を吸着させて黒くした土器です。このような土器は当時の出雲では作られておらず、西日本では九州の有明海沿岸地域で作られていました。島根県内では、高津遺跡(江津市)、平ノ前遺跡(大田市)、口谷Ⅲ遺跡(出雲市湖陵町)で見つかっており、4例目の確認です。これらの黒色磨研土器は有明海沿岸地域からの搬入品であり、九州との海上ル

トを通じた交流を背景にしたものと考えられています。

ひろげ遺跡の黒色磨研土器と同じ時期のものがみつかった平ノ前遺跡は、当時の石見東部の拠点港であったと推定されており、海に面するひろげ遺跡に黒色磨研土器を持ち込んだのも、海を通して他地域と交流した人々と考えられるでしょう。

ひろげ遺跡は海に面した斜面にあり、その立地から「海」との関係が想起されます。さらに今回の土器の検討を通して、「海」を通して他地域と交流した人々との関わりが見えてきました。ひろげ遺跡で、約700年にもわたってまつりが続けられた背景を考えると「海」が重要なキーワードになることは間違いのないようです。

(高橋 周)



黒色磨研土器

(右下の2点がひろげ遺跡出土、他3点は平ノ前遺跡(島根県埋蔵文化財調査センター蔵))

★冬季企画展

「大社駅の100年」

開催中〜2月19日(月)

出雲市には、1912(明治45)年から1990(平成2)年の間、「大社線」という鉄道路線がありました。大社線開通とともに開業した初代大社駅は、出雲大社の玄関口として門前町に新しい時代の到来を告げました。

現存する駅舎は1924(大正13)年2月に建設された2代目の駅舎であり、「旧大社駅本屋」として重要文化財に指定され、2024(令和6)年2月には建設100周年を迎えます。これを記念して、2020(令和2)年から実施中の旧大社駅保存修理事業の成果を中心に、大社線と大社駅の歴史をその時代とともに振り返ります。この機会に、「100年の駅舎」の魅力を感じていただければ幸いです。



(吾郷 誠)

★春季企画展

「科学の力で解き明かす」

出雲の歴史

3月9日(土)〜5月20日(月)

土の中に1000年以上も埋もれていた資料は、錆びたり、風化したりして、使われていた当時の状態とはすっかり変わっています。そのため、色や材質、構造などは肉眼では分かりにくく、復元するのが困難なものもあります。そこで、最先端の科学技術を使って、資料を分析することで、当時の姿を蘇らせることができます。

当館では、市内で出土した資料の科学分析を他機関に協力していただき、顕微鏡観察、X線透過撮影、蛍光X線分析、3D計測、同位体分析、などを実施しました。今回の展示でその成果を紹介いたします。展示する資料は、京田遺跡、矢野遺跡、西谷3号墓、猪目洞窟遺跡、上塩冶築山古墳、鹿蔵山遺跡の出土品などです。

上塩冶築山古墳の金属製品は、奈良県立橿原考古学研究所の皆様と協力し、継続的に分析を実施しています。科学の力で解き明かす出雲の歴史をまとめて紹介いたします。

(坂本豊治)

★ギャラリー展III

「糸をつむぐ」

2月21日(水)〜6月10日(月)

普段私達が使う糸は、繊維を撚り紡いでつくられています。

古代の人々も、現代と同じように短い繊維を撚ることで長い糸に加工し、その糸で布を作っていました。そして弥生時代から糸を撚るのに使われていたのが「紡錘車」です。

紡錘車とは、主3〜5センチ程の円盤(紡輪)の中心部分に孔を開け、棒(紡茎)を通した道具です。その紡茎に繊維をつけてコマのように回転させながら撚りをかけ、できた糸を紡茎に巻き取りながら使用しました。

出雲市内における最古例は矢野遺跡(矢野町)で見つかった弥生時代前期の石製紡輪です。作りかけのものも含め20点以上出土しています。この他にも、市内で様々な素材の紡錘車が出土しています。今回のギャラリー展では主に市内の遺跡から出土した紡錘車の歴史と、出雲と紡績技術の関わりについて展示します。

(永川 ひかる)

★連携事業

「弥生・青銅器でつながる」

弥生ブロンズネットワーク

全国的にも特色ある、古代出雲の魅力伝えるため、県内の博物館4館(出雲弥生の森博物館、荒神谷博物館、加茂岩倉ガイダンス、古代出雲歴史博物館)が連携して職員リレー講座「研究者とめぐる出雲の歴史」を開催します。

当館では、今年、国史跡指定100周年となる今市大念寺古墳・上塩冶築山古墳等を学芸員がご案内します。この機会に出雲の首長墓の魅力をご堪能ください。(申込:島根県立古代出雲歴史博物館 ☎53・8600)



今市大念寺古墳石棺

令和6年(2024)3月17日(日)10時~12時
出雲科学館西側駐車場集合 参加費無料 定員15名
※雨天は出雲弥生の森博物館で展示説明
※自家用車での移動となります

★よすみちゃんが

リフレッシュしました。

クラウドファンディングの寄附金を財源として、当館のマスコットキャラクター「よすみちゃん」の着ぐるみをリニューアルし、11月2日、「よすみちゃんリフレッシュ！お披露目会」を開催しました。



当日は、地元大津小学校の児童をはじめ、100名を超える皆さんに参加していただき、リフレッシュし、パワーアップしたよすみちゃんの姿をご覧いただきました。

イベントでは、テーマソングのX+(えくすと)の楽曲「よすみちゃん(弥生の森博物館)」をBGMに登場したよすみちゃんに对

して、大きな拍手と歓声が起こりました。参加者の皆さまの「はい、よすみ」の掛け声に合わせて、新たな決めポーズ『よすみポーズ』も初披露しました。

お披露目会の翌3日には、佐田行政センター周辺で開催されたサノオごっこいまつりに参加し、新佐田音頭を踊ったり、餅まきをしてたりして、地元の方と交流したほか、同じくまつりに参加していた出雲市消防団マスコットキャラクター「いずもりくん」、島根県観光キャラクター「しまねっこ」とともに写真撮影をするなどして、博物館のPRを行いました。



リフレッシュしたよすみちゃんは、当館のマスコットキャラクターとしてだけでなく、出雲観光大使として、全国に出雲の魅力を紹介、発信していきますので、応援よろしく願います。

★古文書の森をゆく⑱

「史料探訪—古文書はいつに眠る?」

文化財課では、出雲市の歴史を語る貴重な史料を未来へ伝えるために、現在の状況を確認し、所有者の方へ保存をお願いするべく2022(令和4)年から「市内古文書等確認調査」を進めています。地区ごとに、神社や寺院、個人宅へ訪問しているところですが、急なお問い合わせにもかかわらず対応くださる方々に、感謝が尽きません。おかげさまで、各家や、出雲のあれこれを伝える貴重な史料にめぐりあうことができました。

今後、重点的に調査するものについては順次借用・整理をして、内容が分かるよう所蔵者ごとに台帳(目録と言います)を作成するほ

か、書かれた内容の解説・研究を進めていく予定です。

とはいえ、こうした古文書や記録がどこに眠っているのか分からない、という声をお聞きます。

例えば蔵や室内に古いタンスや木箱があれば、その中に。また、段ボール箱に、江戸時代や明治・大正・昭和期の書籍や写本が入っていることもあります。これは、家の建て替え等をきっかけに、古いものを一時的に段ボール箱へまとめたという事例です。ほかにも、仏壇周りや屋根裏など、その家にとつての「収納場所」にそれらは眠っているようです。

皆さんのお宅にも、地域の歴史を語る品々が眠っているかもしれません。ぜひとも情報をお待ちしております。

(春日 瞳)



(上) 段ボールに入る書籍
(中) 古文書を収める箆笥
(下) 江戸時代の多数の手紙

★展示のご案内

▼冬季企画展

開催中〜2月19日(月)

「大社駅の100年」

●ギャラリートーク

1月13日(土)・2月3日(土)

※いずれも10時から

▼春季企画展

3月9日(土)〜5月20日(月)

「科学の力で解き明かす出雲の歴史」

▼ギャラリートークⅡ

開催中〜2月19日(月)

「出雲市大社町・ひろげ遺跡

―700年続いた火のまつりの場―

●ギャラリートーク

1月6日(土)・2月10日(土)

※いずれも10時から

▼ギャラリートークⅢ

2月21日(水)〜6月10日(月)

「糸をつむぐ」

●ギャラリートーク

3月2日(土)10時から

▼速報展①

開催中〜1月29日(月)

「発見!奈良時代のニュータウン

―結西谷IV遺跡の発掘調査速報①―

▼速報展②

1月31日(水)〜5月27日(月)

「発掘!斐川の群集墳

―結本谷古墳群の発掘調査速報―

★講座・講演会のご案内

▼プロが語る!歴史・文化財講座

①1月13日(土)14時〜16時

「大社駅の立地論争と

神門通りの建設目的」

●講師 山崎裕二氏

(公益財団法人いづも財団

常務理事)

②1月27日(土)14時〜16時

「重要文化財・旧大社駅本屋の魅力」

●講師 和田嘉宥氏

(米子工業高等専門学校

名誉教授)

▼冬季企画展関連講演会

2月3日(土)14時〜16時

文化財保存修理事業経過報告

文化財修理と旧大社駅」

●講師 八木誠一氏

(公益財団法人

文化財建造物保存技術協会)

●受講料 無料

※最新情報は博物館

ホームページを

確認ください。



▲ホームページ QRコード

講座・講演会の申込について

定員 各80名

事前申込必須(電話・メール・FAX)

●申込受付時間 9〜17時

●必須事項 氏名・電話番号

★館長古来夢

昨秋の関西地方は、プロ野球日本シリーズの阪神タイガース対オリックスバファローズで大いに盛り上がった。対戦は第七戦にまでもつれたが、最後にタイガースが勝利して38年ぶりの日本一に輝いた。前回の1985(昭和60)年は、奈良の文化財研究所に入所して2年目、出土瓦の整理を担当する考古第三調査室に異動した年だった。

所員にもタイガースファンが多数おり、佐原真さんや森郁夫さんの音頭で祝勝会が開かれた。会場の壁いっぱいに張り出されたスポーツ紙に囲まれながら六甲おろしの大合唱が響いた。

森郁夫さんは、かつて島根県に在職されて発掘や文化財保護に尽力された近藤正先生の國學院大學の後輩にあたり、近藤先生の著作集の編纂にも協力された。1974(昭和49)年に私が初めて発掘現場に参加した時の担当者は近藤先生、10年後の1984(昭和59)年に研究所で発掘に出た時の担当室長が森さんだったので、因縁を感じたことだった。

森さんはその後、京都国立博物館へ転出され、最後は帝塚山大

学で教鞭をとられた。博物館では展覧会用に借用した瓦類を奈文研や京都市埋文研の研究者に拓本・実測させたり、大学でも毎月研究会を開いたりして若手の育成に心を砕かれた。そんな森さんの学恩に応えるべく還暦記念論文集が計画され、私も一文を寄せた。

その後書きに、「古代瓦に携わることになった年にタイガースが日本一になったので、次に日本一に輝くまでは瓦研究を続けますからご指導よろしくお願いします」と記した。「カーネルサンダースの呪い」もあつてか、永らく手が届かなかったが遂に二度目の日本一に。約束には少し違いますが、森さん、もう少し瓦研究は続けますね。

(花谷 浩)

(発行)出雲弥生の森博物館

2024年1月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp
<https://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori>

- 入館料/無料
- 開館時間/9:00~17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日/火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始

